

# 深イ～話！

No.96

——「人の一念」(大法輪「仏教の眼」より)——

ある年の正月、四十代の男性が、突然クモ膜下出血で倒れ、娘さんの成人式当日に亡くなりました。

以下、未亡人の話です。

「主人が倒れた直後、『お父さん、お父さん！』と呼びましたが、応答がなく、救急車を呼びました。

早速手術となり、脳に溜まった血を応急処置で吸引しました。

その時、私の呼びかけに『ママ、ママ！』とつぶやいたのが最後で、昏睡状態になってしまったのです。」

とのことでした。

ご主人はどのような思いで「ママ、ママ！」と言われたのでしょうか？

恐らく奥さんに対して、いろいろな思いを込めての言葉だったのではないかと思います。



残念ながら亡くなりましたが、当日、実に不思議なことがあったそうです。

未亡人曰く、

「亡くなる前日でした。成人式を迎える娘が、どうしても晴れ着を着て、父親に見せたい！と言い出したのです。

そこで、娘さんが婦長さんに頼んだところ、

『あなた、ここが何処だと思っているの？病院よ。ましてお父さんは重体で、集中治療室に入ってるんですよ。他にも何人かの重体の患者さんがいらっしゃるのよ。そこに振り袖姿で入ってきたら、他の患者さんのご家族は何と思う？許可出来ません！』と断られてしまいました。

しかしどうしても諦められず、何度も婦長さんに頼んだそうです。

困った婦長さんは、とうとう院長先生の所に娘を連れて行ってくれました。

娘は泣きながら院長先生に訴えました。

『先生！父に見せたいと思っている振り袖は、父が選んでくれたものです。

去年の秋のことです。普段、こんなことを言う父ではないのですが、突然私に向かって、お前、来年成人式だよな！お父さんが選んでやろう、と言い出しました。その振り袖なのです。

父は、成人式を指折り数えて待ち望んでいました。それなのに、こんなことになってしまいました。

判らなくてもいい、是非見てもらいたいのです』

話をじっと聞いていた先生は、

『分かった。そういうことなら特別許可しよう。』

君は、今日までよくがんばって看病していたね。実に感心な娘さんだと思っていたよ。その親孝行の君に免じて、特別許してあげよう』

という訳で、念願が叶い、当日、振り袖姿で集中治療室の父親の枕元に立つことが出来ました。

娘は、『お父さん！ 私よ、振り袖よ！』父親の肩を揺すりながら、何度も呼びかけました。

そのうち、何と父親の両眼の眼尻から涙が滲み出し、やがて頬にまで伝いはじめたではないですか。

『お父さん、お父さん！』

娘は激しく泣き叫び、父親の身体を揺すりながら、なお呼びかけました。

その時です、主人が目を開けたのです！さらに口を動かしたのです。

『何か言いたがっているんだよ。君を見ているのだよ！』

院長先生がおっしゃるのです。

娘は、

『お父さん、見てくれたのね。これから成人式の会場に行ってくるからね。』

と言い残し、会場に向かいましたが、主人は安心したのでしょうか、間もなく息を引き取りました。

実に不思議なことでした。



後で院長先生は、

『お父さんの娘さんを思う心と、娘さんのお父さんを思う心。この父娘おやこの一念が通じ合った瞬間、医学では到底理解の出来ない奇跡が起こったのだと思いますよ』とおっしゃいました。」

以上、このような話を、未亡人から聞きました。

諺に、「一念岩をも通す」とありますが、人間の思いというものが如何に強く、重いか、改めて感じざるを得ない出来事です。

人生、いろいろなことが待ち受けていることと思いますが、しっかりとした目的と、何が何でも成し遂げたいという強い思いを持って歩みたいものです。